

「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

岩手県市民フォーラム 報告書

2017（平成 29）年 1 月 7 日（土）に、「いわてスポーツコンベンション 2017」の一環として、「スポーツ庁オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」岩手県市民フォーラムが開催されました。岩手大学の清水将氏をコーディネーターとして、オリンピック（バドミントン）の小椋久美子氏、パラリンピアン（陸上競技）の芦田創氏、本センターの友添秀則氏をパネリストとしてシンポジウムが行われました。当日は、地域の生徒や市民など約 300 名の方々にご参加いただき、下記の要領で盛会の裡に終了いたしました。

【開催概要】

日時：2017（平成 29）年 1 月 7 日（土）15 時 10 分～16 時 40 分

会場：アイーナ いわて県民情報交流センター

主催：岩手県教育委員会、公益財団法人岩手県体育協会、「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」岩手県コンソーシアム、早稲田大学オリンピック・パラリンピック教育研究センター

参加者：約 300 名

プログラム：

15:10～ シンポジウム	テーマ「“地方発” オリンピック・パラリンピック・ムーブメント」
コーディネーター	清水 将氏（岩手大学）
パネリスト	小椋 久美子氏（北京オリンピック バドミントン競技 第 5 位）
	芦田 創氏（リオデジャネイロパラリンピック 陸上競技 銅メダル）
	友添 秀則（早稲田大学オリンピック・パラリンピック教育研究センター）

シンポジウムの冒頭では、芦田氏がリオ・パラリンピック競技大会で獲得した銅メダルを掲げながら、パラリンピックのメダルには鈴が入っており、障害があってもメダルを実感できるように作られていると、パラリンピックにまつわるお話をしていただきました。



リオ・パラリンピック銅メダルについて語る芦田氏



会場の様子

コーディネーターの清水氏には、主にスポーツのすばらしさについて、パネリストへ質問をしながら進行していただきました。パネリストの小椋氏からは、オリンピックの舞台は様々な犠牲を払って努力してきた人が出場できる場であり、出場できる喜びの他にも緊張感や責任も伴うものであると、トップアスリートだからこ

そ経験した栄光と苦悩や葛藤、それらを乗り越えた先にある成長についての話をさせていただきました。芦田氏からは、障害を負った自身の生い立ちも交え、スポーツとは努力した分だけ必ず自分に成果が返ってくるものであり、自分が輝けるもの、自分を好きになれるものであると、力強い話をさせていただきました。



コーディネーター 清水氏



記念撮影

また、小椋氏・芦田氏の双方から、声援は力となり勇気を与えてくれるという話をさせていただきました。特に、海外での試合は、離れていても応援してくれる人々の存在や、ボランティアとして試合の運営などを支えてくれる人々の存在が非常に大きく、2020年の東京オリンピック・パラリンピックでも、ぜひ岩手県から多数のサポーターが出てくれることを期待していますとお話させていただきました。また、アスリートとして自身が強くなること、あるいは指導者として子どもたちに競技を教えることを通して、子どもたちに活力を与え地域の復興に貢献していきたいという抱負も語っていただきました。

そして友添氏からは、スポーツは時代の流れとともに変容してきており、健常者・障害者という枠組み自体も変化してきているということや、スポーツには「する」ということ以外にも多様な関わり方があり、2020年の東京オリンピック・パラリンピックに岩手県からどれだけ多くの若い人々がボランティアとして参加し、彼らがそこでの体験をもとにその後も岩手県にどのように関わっていくことができるかという点が、復興に繋がる重要なポイントではないかと、総括の言葉をいただきました。



質疑応答の様子（参加者からの質問に答える小椋氏）